

患者サポートセンターだより

Regional alliances and support

2018

59号



作：代謝・内分泌・糖尿病内科部長 藤原 豊 「函館山の教会」

目次

1. 新年度を迎えて
2. 副院長就任のご挨拶
3. 新任医師のご紹介
5. 患者サポートセンター 新メンバー紹介
6. 成樹会より 年間行事のお知らせ
7. KKR札幌医療センターの理念・基本方針



新年度を迎えて

病院長 磯部 宏

連携いただいている諸先生方には日頃から格段のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。今年度もご支援の程よろしく願いいたします。

さて、先生方へのご報告ですが、地域医療構想での急性期病床の過剰問題および近年の当院の病床利用状況を鑑み、この4月より450床から410床へと病床削減を行いました。同時に一部病棟の再編を行っております。病床の削減は行いましたが診療機能は従来通りであり、地域医療に貢献する病院であり続けることに何ら変わりはありません。さらに今回の病棟再編では、救急患者の受入が容易になるように特定の診療科に属さない病床を用意したこと、需要が多かった緩和ケア科病棟を増床したこと、安全で安心できる抗がん剤治療のため入院抗がん剤治療を一病棟に集約したことなど、これまで以上に先生方のお役に立てるのではと自負しております。また同時に、昨年立ち上げました患者サポートセンターをさらに充実させ、入院前支援から退院・逆紹介支援までの一連の流れをより効率的になるよう取り組んでおります。日々進化する当院の機能を是非ご確認いただき、ご支援いただければと思います。

さらに、中央診療棟の増築が連休明けには終了します。これにより放射線治療装置の休止期間のない更新を行えるとともに、手術室を増室することができます。また、当院は日本専門医機構の内科・外科の基幹病院であり、合わせて北海道大学の関連施設でもあり、現在は4名の専攻医(後期臨床研修医相当)がこの4月より勤務しております。従来の初期臨床研修医も含めた若い医師への教育に力を注ぐとともに、若い力と一緒に地域医療に取り組んでまいりたいと思っております。

さて、最後にご紹介であります。6月8日(金)、9日(土)に「第20回日本医療マネジメント学会学術総会」を開催いたします。この学会はクリティカルパスから始まり、医療安全や医療連携に取り組む学会で、今回はさらに医療倫理や終末期医療にもテーマを広げました。地域医療として新専門医制度や地域医療構想のお話を特別講演でお願いしますし、シンポジウムでは地域医療介護連携、栄養管理からみた地域連携、病薬連携などを取り上げました。また、チーム医療の重要な担い手である臨床工学技士、医師事務作業補助者、医療福祉連携士の方々の活躍ぶりも取り上げました。さらに教育講演の一部、医療安全、感染対策、医療倫理は日本専門医機構の専門医共通講習に申請し承認をいただきました。専門医・専攻医の更新申請に必要な必修講習3分野の企画となっておりますので、専門医資格の更新の必要な先生方には是非ご参加いただければと思います。北海道の紹介として、北海道大学の小林快次先生に「恐竜研究最前線」と題し「むかわ竜」のお話しをお願いしましたし、高田礼人先生の「エボラウイルス最前線」の講演では感染対策はもちろんですが、むしろアフリカでの苦労話を期待しております。また、初日開催の懇親会では、よさこいソーラン祭りの常勝チームで昨年も優勝しました「平岸天神」(当院の地元です)が本番前にステージで踊りを披露していただけることになりました。是非本学術集會にご参加いただければと思います。



副院長就任のご挨拶

レジリエンス

副院長・緩和ケア内科部長 瀧川 千鶴子

平素より大変お世話になっております。今年度より、副院長兼緩和ケア内科部長を拝命致しました。自分の役割に戸惑い不束ではありますが、どうぞご指導くださいますようお願い致します。

さて、皆様のお花見はいかがでしたでしょうか？ 今年、桜の蕾に気がついた途端に、花びらが道に舞う瞬間の開花だったように思います。花が早く咲いても、散っても心の底から驚くことはありません。しかし、これが予想外のことであったら、どんなに驚くことでしょうか？

2013年3月3日 中標津では、暴風雪で車が立ち往生し、車内での一酸化炭素中毒や車外のホワイトアウトが多く命を奪ってしまったことは、想定外の出来事でした。3月にこのような激しい天気になるとは誰もが予想せず、不要不急な外出を自他ともに容認したのでした。リスクに対応することができない悲しい結果となりました。いまでは冬の気象に各地の降雪量と風力が情報され、外出への警告も厳しく、判断力の低下から惨事を繰り返さぬよう、事前準備がされています。

がん末期や治すことのできない病気であると宣告されたとしたら、その瞬間は判断能力の欠如した状態になることは、容易に想像できます。しかし、日頃からの教育によって、病気や死ぬ話が普通にされていたら、そのプ

ロセスが絶望感を変容させる可能性があります。強いストレスにさらされてもなお、知識、経験、取り巻く環境、感情のコントロールによって、レジリエンスを築くことが可能なのは周知です。避けられない死と生きる力をつける教育及び潜在的な克服能力を引き出すことは、大切な教育であるとつくづく思うのは、私だけではないでしょう。

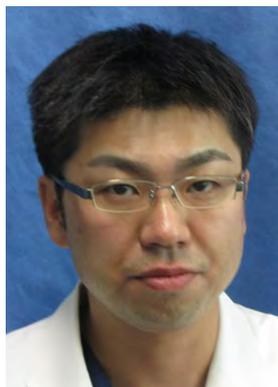
自分を認め、他者の多様性や環境の変化に柔軟に対応できる能力を自分も養いたいものです。

「春暮れて後、夏になり、夏果てて、秋の来るにはあらず。春はやがて夏の気を催し、夏より既に秋は通ひ、秋は即ち寒くなり、十月は小春の天気、草も青くなり、梅も蕾みぬ。木の葉の落つるも、先づ落ちて芽ぐむにはあらず、下より萌しつはるに堪へずして落つるなり。迎ふる気、下に設けたる故に、待ちとる序甚だ速し。生・老・病・死の移り来る事、また、これに過ぎたり。

四季は、なほ、定まれる序あり。死期は序を待たず。死は、前よりしも来らず、かねて後に迫れり。人皆死ある事を知りて、待つことしかも急ならざるに、覚えずして来る。沖の干潟遥かなれども、磯より潮の満つるが如し。

吉田兼行 徒然草

新任医師の紹介



循環器内科医長

佐藤 隆博 (さとう たかひろ)

本年度より、循環器内科に赴任いたしました佐藤隆博と申します。
今年で卒後 16 年目になります。循環器全般の診療にあたりますので、いつでもご相談ください。
これからよろしくお願いたします。



呼吸器内科医長

荻 喬 博 (おぎ たかひろ)

前任地は帯広厚生病院で、5 年間呼吸器内科医として勤務し、本年度から KKR 札幌医療センター呼吸器内科に赴任いたしました。
後期研修医として 1 年間勤務させていただいており、10 年ぶりの復帰となりました。これまでの経験に更なる研鑽を積み、この地域での呼吸器領域の診療に微力ながら尽力させていただきたいと思っておりますので、何卒宜しくお願申し上げます。



外科医長

蔵谷 大輔 (くらや だいすけ)

この度、KKR 札幌医療センター外科医師として赴任いたしました、蔵谷大輔と申します。本年で卒後 17 年目となります。
前任地は苫小牧市立病院で、消化器外科の悪性疾患を中心に広く一般外科の診療に携わっております。皆様のお役に立てるよう、頑張ります。よろしくお願申し上げます。



小児科医師

下村 真毅 (しもむら まさき)

この度、KKR 札幌医療センター小児科に赴任いたしました、下村真毅と申します。
苫小牧王子総合病院で初期研修後、北海道社会保険病院（現 JCHO 北海道病院）小児科で 2 年間、後期研修を行いました。その後、静岡県立こども病院に移り、主に免疫アレルギー科での勤務を経て、当院に着任いたしました。今年で医師 10 年目となります。食物アレルギー、小児リウマチ性疾患を中心に、幅広く一般小児診療に対応していきたいと考えております。どうぞよろしくお願申し上げます。



精神科部長（院内精神科担当）

田中 輝明（たなか てるあき）

この度、KKR 札幌医療センター精神科部長として赴任いたしました。精神科診療は院内入院患者さんを対象としており、また、緩和ケア科精神科医としての診療が中心になりますので、地域の先生方と直接やりとりさせていただく機会は限られるかと思えます。

当院も高齢の方が増え、せん妄や認知症が問題となっております。他の診療科を含め、院内全体の精神医学的問題に取り組むことで、地域のお役に立てればと考えております。皆様にはお世話になることも多いかと存じますが、どうぞ宜しくお願いいたします。



緩和ケア内科医長

佐藤 雅子（さとう まさこ）

本年度より KKR 札幌医療センター緩和ケア科医師として赴任いたしました佐藤雅子と申します。昨年度までは乳腺外科医として乳腺診療に携わってきましたが、乳癌の患者様を診る中で緩和ケアの重要性を強く感じるようになりました。このたび緩和ケア医療に携わることができることになり、とても嬉しく思っております。

今後は、緩和ケアを通して地域医療にも貢献できればと思っております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



皮膚科医師

堀田 萌子（ほった もえこ）

この度、KKR 札幌医療センター皮膚科医師として赴任しました、堀田萌子と申します。

今年で医師としては7年目、皮膚科医としては5年目になります。これまで北海道大学病院、千歳市民病院、帯広厚生病院、市立札幌病院で勤務していました。

皆様のお役に立てるよう日々尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



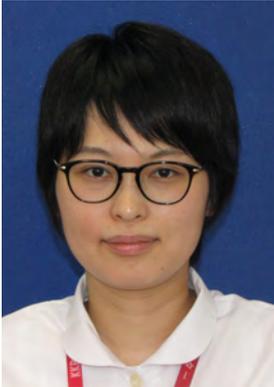
眼科医師

品川 真有子（しながわ まゆこ）

本年度より KKR 札幌医療センター眼科に赴任いたしました、品川真有子と申します。

少しでも皆様のお役に立てるよう努力してまいりますので、よろしくお願ひいたします。

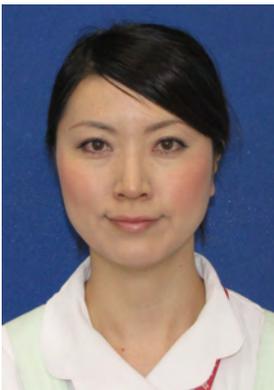
患者サポートセンター 新メンバー紹介



山口 沙織 (やまぐち さおり)

1年ほど産後休暇・育児休暇を頂き、このたび患者サポートセンターに配属となりました山口沙織と申します。産休前は腫瘍内科・呼吸器内科・眼科病棟に8年ほど在籍しておりました。病棟でも治療期から退院後の生活を念頭に置きカンファレンスなどを行っており、以前から地域で生活する患者様のためにどのようなサポートが行えるか関心があったので、病棟での経験を活かし地域の先生と連携しながら患者様が安心できるような看護を行えるよう努めていきたいです。

新しいことだらけで不慣れな部分も多くありますが、誠心誠意を努めていきたいと思えます。よろしくお願いします。



濱田 いづみ (はまだ いづみ)

4月から患者サポートセンターに配属になりました濱田いづみと申します。元々外科や皮膚科などの病棟に12年間勤務しておりました。病棟では入院から退院までの関わりがメインですが、患者様が退院後不安なく生活していける環境作りをサポートしていきたいという思いがあったので、今回この部署で入院前から退院後までをお手伝いできることを嬉しく思っています。

昨年出産し1年ぶりに現場復帰となり不安や緊張もありますが、コミュニケーションを大切に頑張りますのでよろしくお願いします。



成樹会より 年間行事のお知らせ

厚生委員長

病院正面玄関においてロビーコンサートを開催しています。5月看護週間コンサート、9月敬老週間コンサート、12月クリスマスコンサート、2月バレンタインロビーコンサート。これらの年間ロビーコンサートを開催しています。クリスマスコンサートではボランティアさんのご協力のもと患者さん・ご家族一人ひとりへサンタクロース・トナカイに扮したスタッフがプレゼントをお配りしています。また、臨時でのロビーコンサートもあり、その時期に合わせた曲目での演奏が繰り広げられています。病院正面玄関でのロビーコンサートとなるため時期によっては寒い中での開催となります。しかし、どのコンサートも参加されている患者さん・ご家族の笑顔のもと手拍子や歌声が広がり温かな空間となります。約30分という短い時間ですが、終始笑顔あふれるコンサートを開催しています。

また、5月看護週間・9月敬老週間にて1階エスカレーター下にて血圧測定や体脂肪測定、栄養指導を開催しています。例年、多くの患者さん・ご家族の参加があります。



KKR 札幌医療センター 理念

「病院は人」のところで、活力ある病院、選ばれる病院を創ります
生命の尊厳を保ち、健康の回復につくします
温かな配慮で安寧（あんねい）につくします

基本方針

1. “生活の質”向上に重きをおく医療を心がけます
2. 安全を確保し、時代を先取りした医療を推進します
3. 患者さんの声に耳を傾け、分かりやすく説明します
4. 医療の情報を進んで開示します
5. 地域に信頼される医療を目指します



KKR 札幌医療センター

〒062-0931
札幌市豊平区平岸1条6丁目3-40
TEL 011-822-1811(代)

患者サポートセンター

地域連携室 TEL 0120-552-303
FAX 011-832-9624
連携いただいている先生方よりお受けしております。

医療社会事業相談室 TEL 011-832-3260
がん・緩和ケア相談を含む、医療施設・患者・家族よりお受けしております。